

異学年での交流を生かした 授業展開の工夫

第5・6学年 国語科・書写の実践より

第5学年:「広がる、つながる、私たちの読書／千年の釘にいどむ」

「文字の組み立て方2 『道』」「硬筆の学習 文字の組み立て方 中と外」

第6学年:「私と本／森へ」

「文字の組み立て方と点画のつながり2『歴史』」「硬筆の学習 文字の組み立て方 中と外」

複式学級での発表・表現の場の特徴

- 各学年が少人数である

メリット

- ・ 児童一人一人の意見をじっくり聞くことができる。
- ・ 発表の機会が多い。

デメリット

- ・ 多様な意見が出にくい。

日々の授業において
主体的・対話的で深い学びを
実現することが難しい・・・

デメリットを
克服するヒントは

学級内での「異学年の交流」です！



実践① 国語科における異学年の交流

① 同じ領域を組み合わせる

5年生1名、6年生1名
計2名の複式学級での実践です。

学年	5 年	6 年
単元名	広がる、つながる、私たちの 読書 千年の釘にいどむ	私と 本 森へ
単元目標	○ 複数の本や文章を読んだ中から、薦めたい本を選ぶことができる。 ○ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	○ これまでの本との関わり方を振り返り、発表し合うことで、今後の読書生活の幅を広げることができる。 ○ 自分の考えを明確に表現するため、語句と語句の関係を理解し、文章全体の構成と効果を考えることができる。

両学年の**読書の単元**を組み合わせる

(同単元類似内容)

実践① 国語科における異学年の交流

② 異学年の交流の場を設定する

- 授業の始めに課題を共有する。

5年生：本のポップ作成
6年生：本の感想文作成

相手意識・目的意識をもって
学習を進めることができる。

- 授業の後半に学習の成果を互いに紹介し合う。

○ 引用文やキャッチコピーの理由も発表できるようにする。	6 出来上がった作品を、5 5 感想文を5年生に紹介する。	○ 聞き手のことを考えた読み方ができるように、意識させる。
○ よかったところを伝え、次時の活動の見通しをもたせる。	7 本時の学習を振り返り、次時の学習について知る。	○ よかったところを伝え、次時の活動の見通しをもたせる。
	5 6 本時の学習を振り返り、次時の学習について知る。	

展開

下学年	わたり	上学年
課題把握 共通指導		課題把握 共通指導
↓		↓
解決努力 間接指導→直接指導		解決努力 直接指導→間接指導
↓		↓
学習のまとめ 共通指導		学習のまとめ 共通指導

教材を「読書」に合わせたことで
ねらいや学習活動の流れにも
共通点が増えて、終末だけでなく
効率的な指導が可能になります。

実践① 国語科における異学年の交流

② 異学年の交流の場を設定する

ねらいを共有して意見交換ができる

感想が言えるように
いいところを
見つけながら
しっかり聞こう！

6年生のいいところを
見習って発表しよう



下級生

上級生

5年生でも分かるように
発表しよう！

5年生の発表を聞くときは、
感想やアドバイスが
できるように、
しっかり聞こう！

他にも・・・

授業時間だけでなく、完成した5年生のポップや6年生の感想文を廊下に展示しておくことで、他の学年の児童にも、付箋等を使って感想を書いてもらうなど、さらに交流を広げることができます。

実践② 書写における異学年の交流

① 同単元の教材を組み合わせる

5年生1名、6年生1名
計2名の複式学級での実践です。

学年	5 年	6 年
単元名	○「 <u>文字の組み立て方</u> 2『道』」 ○「 <u>硬筆の学習 文字の組み立て方 中と外</u> 」	○「 <u>文字の組み立て方</u> と点画のつながり2『歴史』」 ○「 <u>硬筆の学習 文字の組み立て方 中と外</u> 」
単元目標	○ <u>中と外の部分の組み立て方について理解することができる。(毛筆・硬筆)</u> ○ <u>中と外の部分の組み立て方に気を付けて字形を整えて書くことができる。(毛筆・硬筆)</u> ○ 「によう」の筆使いに気を付けて書くことができる。(毛筆)	○ <u>中と外の部分の組み立て方について理解することができる。(毛筆・硬筆)</u> ○ <u>中と外の部分の組み立て方に気を付けて字形を整えて書くことができる。(毛筆・硬筆)</u> ○ 点画のつながりに気を付けて書くことができる。(毛筆・硬筆)

両学年で目標に重なりが生まれる

(同単元類似内容)

実践② 書写における異学年の交流

② 異学年の交流の場を設定する

- 授業の始めにめあてを確認する。

字形の整え方について
話し合いを行う。

- 授業の終末に、学習の成果を互いに認め合う。

展 開

下学年	わたり	上学年
課題把握 共通指導 ↓		課題把握 共通指導 ↓
解決努力 直接指導→間接指導 ↓		解決努力 間接指導→直接指導 ↓
学習のまとめ 共通指導		学習のまとめ 共通指導

目標が重なっているため
同じ視点で話し合いができる

5 ま と め	○ 試書と比べて成果を実感できるようにする。 ○ 6年生と練習の成果を認め合うよう促す。	・ まとめ書きをし、自己評価・相互評価をする。	○ 試書と比べて成果を実感できるようにする。 ○ 5年生と練習の成果を認め合うよう促す。
------------------	---	---	---

実践② 書写における異学年の交流

② 異学年で話し合いを深める工夫

授業の始め

- それぞれの学年の毛筆の作品を見合う。



お手本
試し書き
まとめ書き

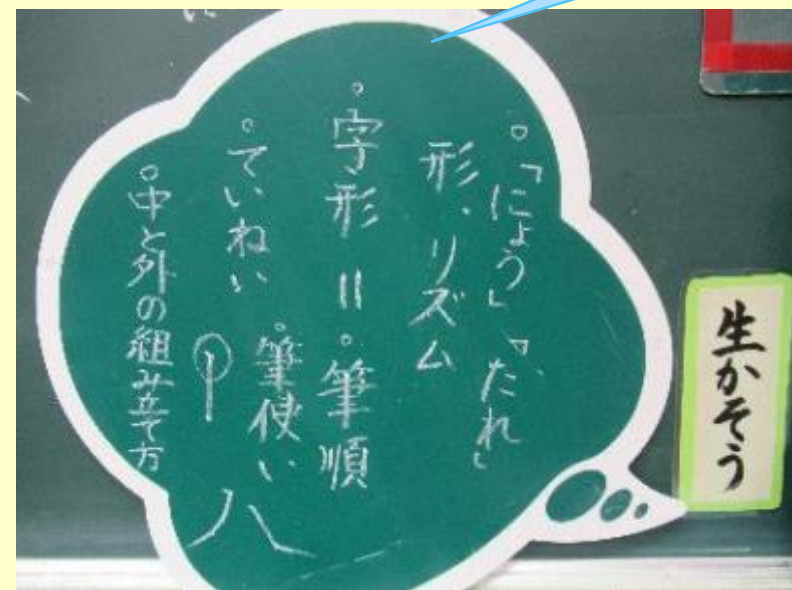
- 動画を見合う。



授業の終末

- 単元のまとめをする。

毛筆のどのようなところを
硬筆に生かせばよいのか
異学年の話し合いによって、
まとめることができた。



異学年の交流のメリット

学級内での異学年の交流は
日常的に取り入れることができる
発表・表現の場の工夫です

下学年にとって

- ・ 自分では気付かなかったことを上級生に教えてもらえる。
- ・ 上級生のおかげで新しい内容の導入がスムーズにできる。
- ・ 次年度学習する内容の予習ができる。

上学年にとって

- ・ 前年度までの復習ができる。
- ・ 上級生としての的確なアドバイスができるよう、真剣に聞くことができる。